

衣食住

Solo Photo Exhibition by Cheb Moha

Place: Midori so2. Gallery
(Omotesando, Tokyo)

Date: June, 9, 2019 - June, 21, 2019

Organizer : Resala (Sevin Genouzono, Yuri Mizoe)

Support: Arts Council Tokyo



趣旨

昨今、暗いイメージばかりが報道されている中東諸国。本プロジェクトは、アートを通して中東に対するイメージをポジティブに変え、中東の文化やアートをもっと身近に感じてもらうことが目的であった。今回採用した作家シェブ・モハ（Cheb Moha）は、ドバイに活動拠点を置いているが、フィルムカメラを持ち中東の様々な国や地域を訪れ写真に収め、インスタグラムをはじめとしたソーシャルメディアを通じて世界中に知られざる中東の姿を発信している。

写真展の主なプログラムとしては、オープニング二日目に雑誌トランジット編集長の林紗代香氏とシェブ・モハによるトークイベントを開催。本イベントでは、イスラームに関する特別号を発行した経験のある林氏の視点から読み解く新しい中東地域のユースカルチャーをお伺いすることで、参加者のより深い理解を図った。また、作家が帰国する前日には日本滞在中に作家が出会ったクリエイターとの交流の場を中目黒のカフェにて設けた。





来場者のアンケート

「中東地域にこんな明るい日常があるなんて知らなかった」
(大学生)

「中東にも遊園地があるんですね。意外でした」 (大学生)

「今までのステレオタイプとは違った中東の一面が知れて意義深い展示です。多くの生徒に見てもらいたいので授業で宣伝します」 (大学教授)

「異国の香りがするのにも、どこか懐かしい感じがして不思議な感覚になりました」 (60代、ご夫婦)

「今後もこのような展示が見たいです」 (30代、会社員)

「ドバイで数年暮らした経験があるのに、このような一面を知る機会がなかったです。作家の視点が斬新で面白かったです」 (40代、会社員)

掲載メディア一覧

媒体名	日付
ARTLOGUE	2018年04月11日
ARTLOGUE	2018年04月27日
ARTLOGUE	2018年05月10日
ARTLOGUE	2018年05月24日
日本仕事百科	2018年05月10日
Migrants Network	2018年6月(198号)
NHK World	2018年06月27日
HEAPS Magazine	2018年06月29日





今回の写真展は、普段日本では知られることのない中東湾岸地域の日常を切り取った写真の展示であったため、当初の目標であった「中東に対する負のイメージを脱却」することができた。その証に、本写真展には多くの日本人クリエイターが訪れ、来日した作家シェブ・モハとの交流を通して新しい価値観の意見交換を盛んに行っていた。また、都内の大学に通う学生の来場者も多く、彼らが今まで抱えてきた中東に対する一方的なイメージの脱却に本写真展がつながったとともに、彼らの中東文化に対する認知度を上げることにつながった。こういったことから、本写真展は、2020年オリンピックに向けて多様性が急速に進む東京において、大変意義深い企画となった。

写真家としてもドバイ及び周辺国で注目を集め、今後の活躍が期待される作家シェブ・モハの写真だけでなく、ファッション、音楽など多分野にまたがり境界を感じさせない彼の生き方そのものが、写真展に訪れた写真家、ファッション関係者、その他クリエイターに影響を与えた。さらに、本写真展は作家シェブ・モハと日本在住のクリエイターが今後、新たなプロジェクトを始めるきっかけを提供することに成功した。他のギャラリーや大学での展示へお誘いをもらうなど、本企画の今後のさらなる展開も期待できる結果となった。

写真展を開催する最大の目標は、ステレオタイプではない新しい中東地域の側面を日本で紹介することだった。写真展に訪れる人々によるフィードバックに、「新しい中東を発見することができた」というものが多く、本写真展を開催した意義があった。今回の経験を生かして、今後も新しい中東地域の文化を知ってもらえるプロジェクトを企画したいと思う。



今回は、中東地域の今まで知られることのなかった日常を知ってもらうきっかけとなる、敷居の低い内容の展示となったが、今後はより一層深く中東地域のアート界そして若い世代のカルチャーを知れるプロジェクトを企画したいと思う。そのためには、今回はトークイベントが1回、作家との交流会が1回のみであったが、次回からは会期中に複数回トークイベントやワークショップを開催することで、参加者のより一層深い学びの機会を提供したい。

今回の来場者に対して、今後も中東地域のアート界に関する現状をウェブマガジンのコラム等で情報提供するとともに、次期プロジェクトのテーマを選定していきたい。そのためにも、日頃リサーチを続け、現地のアーティストとコンタクトを密に取り、次の企画でティーチインやワークショップに協力してもらえる方々との人脈を広げていきたい。具体的な取り組みとしては、自身のウェブマガジン(seeME)及び他の媒体での情報発信、現地視察、日本で協力をしていただける大学教授やアーティストとの意見交換などが挙げられる。

